

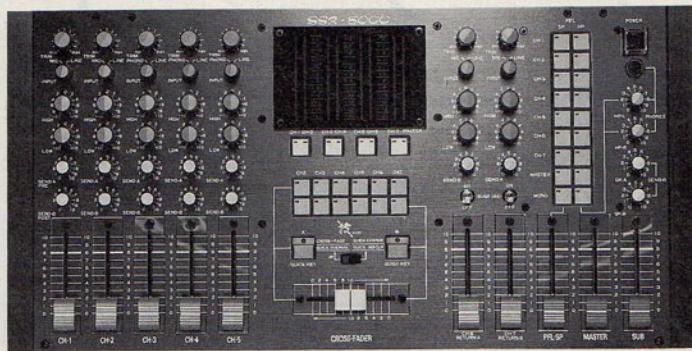
さまざまな“技”が使える完全プロ仕様のディスコ・ミキサー

音響システム研究所
SSR-5000“技”

PROFESSIONAL DISCO MIXER

498,000円

by 宮崎泉 (DUB MASTER X)



数あるDJミキサーの中で、ついに私の納得するものに巡り会えたぞ！ というのが私がこのSSR-5000をチェックしてみた後の偽りのない感想。ホントにイイんだ、これが。そんなわけで、こいつがいかにスゴイかをここに紹介してみたい。

細部に至るまで細かい配慮の行き届いたプロ用設計が嬉しい！

●基本性能について

まずは基本性能について。SSR-5000は、7つのチャンネル（すべてステレオ仕様）を同時に使用でき、切り換えによってフォノ×3、マイク×4、ライン×7の入力に対応することが可能だ。また、独自のクロスフェーダー回路を採用しているため、その名のとおり、さまざまな“技”を駆使することができる。そしてもちろん、アウトプットはXLRキャノンで+4dBと、しっかり業務用のラインを軽くクリアしている。

では、パネルを見ながらもう少し細かく解説していこう。まず各チャンネルのトリムだが、これは±15dBの範囲で可変できるため、レベル差の激しいレコードをプレイする最近のクラブやディスコでは重宝しそうだ。トリムの下にはインプット・セレクター・スイッチがあり、フォノ/マイク等の切り換えが行なえる。EQは、ハイとローの2ポイントで、いずれもシェルヴィング・タイプ。それぞれ10kHzと100Hzを±12dBずつ調整できる。そしてAUX SENDは、EQおよびフェーダーの前から信号を送るSEND-Aと後から送るSEND-Bの2系統がある。

パネル中央にあるインプット/アウトプットのレベル・メーターは、各メーターの下にあるスイッチによって、アサインするチャンネルを切り換えることが可能だ。このメーターは、入力に関してはEQおよびフェーダーの前（すなわちトリムの後）のレベルを示すため、チャンネルのトリムの調整で、次につなぐレコード（or CD）とのレベル差を極力なくすることができる。

次にいちばん大切なモニター関係をチェックしてみよう。モニターは、ヘッドフォンとライン・アウト（モニター・スピーカー接続用）の2系統で、パネル右側のPFL/SP & HPのチャンネル・ナンバーを押せば、同時にいくつものチャンネルをミックス

▼リア・パネル



してモニターできる。しかもその信号をモノラルで聴くことも可能だ（これがけっこうアリガタイ）。ヘッドフォンのレベルも十分過ぎるほどで、これならゴルゴ13も口を割るかもしれない(?)。

●実際に使ってみると……

さて、とりええず使ってみないことには仕方がないので、パワーをオン。このパワー・スイッチにはもちろんプロテクト・カバーが付いている。巷に出回っている安価なディスコ・ミキサーにはたいていこれがないのだが、さすがにプロ機はひと味違うな、という感じだ。

続いてチャンネル・フェーダーを上げてみると……これまたGOOD！ 妙な引っかかりがなく、かといって軽すぎもしない、絶妙なタッチだ。フェーダーのカーブもキツくなく、ハウス系のロング・ミックスにもパッチリとハマりそうである。

それにEQもイイ。普通の（サンレコ読者のようなハードに強い）人からみれば、なんでハイとローの2ポイント、それも10kHzと100HzのEQなんかかそんなに良いんだ？ ということになるだろうけど、ディスコ・ミキサーの場合、これが実に重宝するのだ。ディスコで、ブリブリ低音の出ている2枚のレコードをミックスすることを考えてほしい。こうなるとたとえテンポが合っていたとしても、相当気持ちの悪い音になるのはまず間違いない。ましてや東京・芝浦の“ゴールド”のような大音響システム（400人くらいのフロアでターポを12本吊って、それにクリプッシュのローを10本くらい吊るしたような感じ）になると、2枚をミックスしていく中で、どちらかのキックかベースのローEQをカットしたくなるのが人情というもので、そんな時、100HzのローEQは地獄に仏みたいなものだ。じゃあ10kHzの方は？ という、これはモコモコした音のインディーズ系のレコードのハットとスneaを出すため用、と考えていっただろう。

●必殺クロスフェーダー

次に、このSSR-5000の大きなウリであるクロスフェーダー部分について。まず驚きなのが、クロスフェーダーA/Bチャンネルに好きな入力チャンネルをアサインできること。それにこのクロスフェーダーは、フェーダーを真ん中を持ってくると、ちゃんとA/Bチャンネルがフルに出る（実際、真ん中でA/Bともレベル表示は10になっているし、レベルが下がっているようには聴こえない）。この辺の設定具合は実に見事だと言えるし、きわめてスクラッチ向きだと思う。

そしてこのクロスフェーダー部の最大の武器が、クイック・キー。これを使えば、あなたも今夜からキャッシュ・マネーやジャジー・ジェフになれること間違いなしだ。まず、モード・セレクターをクイック・オーバーミックスの側にすると、あるチャンネルをプレイしている時に、もう片方のチャンネルのクイック・キーを押して、そのチャンネルの音をかぶせることができる。要するにクロスフェーダーを使わずにトランスフォーマー・スクラッチができるわけだ。また、モードをクイック・チェンジの側にすれば、クイック・キーを押すことによって同時にもう片方のチャンネルをオフすることも可能。つまりプレイ中のチャンネルとクイック・キーを押したチャンネルとを瞬時に入れ換えることができるのである。この機能を使えば、小節単位や音符単位で交互にチャンネルの入れ換える、なんていうことも簡単にできてしまうわけで、とにかく大変なスグレモノであることは間違いなさだろう。

●はたしてSSR-5000は高いか安い？

と、まあこのような内容を持つSSR-5000だが、はっきり言って価格だけ見れば、やはり高い。しかし、機能と性能を考えれば、ムチャクチャ安いと断言できる。私はこれまでに国内外のほとんどのディスコ・ミキサーを使用してきたし、その価格やウィーク・ポイントもよく知っているが、ここまで信頼できる製品にはお目にかかったことがなかった。それでこの価格は驚きモンである。

私はこのミキサーが欲しい！

SPECIFICATIONS

- 周波数特性/ライン：20Hz～20kHz±1dB、マイク：20Hz～20kHz±0.5dB
- 歪率/ライン：0.002%以下、マイク：0.03%以下
- 入力換算雑音/100dB以下
- クロストーク/60dB以上
- イコライザー/ロー：100Hz（シェルヴィング）、ハイ：10kHz（シェルヴィング）
- 入力/マイク×4（XLR-3-31相当、-60dB、5kΩ）、フォノ×3（ピン・ジャック、-45dB、47kΩ）、ライン×7（ピン・ジャック×5、フォーン・ジャック×2、-20dB、30kΩ）、マイク以外はステレオ仕様
- 出力/マスター×1（XLR-3-32相当、+4dB、600Ω）、サブ×1（XLR-3-32相当、+4dB、600Ω）、PFL×1（ピン・ジャック、+4dB、3kΩ）、REC×1（ピン・ジャック、-10dB、3kΩ）、センド×1（フォーン・ジャック、+4dB、3kΩ）、すべてステレオ仕様
- 電源/AC100V、50/60Hz
- 消費電力/37W
- 外形寸法/540(W)×110(H)×275(D)mm
- 埋め込み用切り込み寸法/510(W)×150(H)×275(D)mm
- 重量/8kg